

奥の細道むすびの地「大垣」 十六万市民投句

一般の部

奥の細道  
むすびの地



特選

令和五年六月度 入賞句一覧 投句数 五百六十六句

大西 誠一 選

塔落慶人の溢るる駅の春

大垣市 水谷 義雄

落慶されるのは薬師寺の東塔である。  
法相宗の大本山であり、度重なる災禍により東塔と東院堂のみが残る。なお、  
金堂は昭和五十一年に、西塔は五十五年に再建された。国宝がたくさん存在し、  
久しぶりに溢るるばかりの人が集まったことであろう。

曾孫来て穴一つ増え春障子

愛知県額田郡 平松 京師

「障子貼る」が秋の季語であるが、きちんと貼られて、正月を越した障子が、  
曾孫によつて穴を開けられた。やられたなという腹立たしさの反面、曾孫の成長  
を喜ぶ老人の笑顔が浮かぶ。

草笛を競ひし遠き日のありぬ

大垣市 山田 千歌子

この句を読んだ時まず感じたのは、本当にそうだなあということ。今の子供た  
ちは、物が豊富で草笛などはほとんど作らない。いや作れない。  
「遠き日のありぬ」という完了形がよくきいている。

秀逸

梅花藻の川を船頭棹さばき

不破郡垂井町 児玉 信子

クレヨンの足りぬ色ありチューリップ

本巢市 土川 みどり

糠床を母は守りて胡瓜漬

安八郡神戸町 早津 郁男

むすびの地造り滝にて逢へる人

愛知県岩倉市 村瀬 みさを

決壊のしるべ輪中の花は葉に

大垣市 小林 研

若葉風門に貼られし千社札

大垣市 北島 暁子

老いてなほ好きな柄あり更衣

大垣市 村田 通夫

革靴の男のコロン業平忌

三重県四日市市 井戸 康子

校庭の巡回映画蚊遣香

愛知県豊田市 城山 悠水

卯の花や盲導犬の優しき目

大阪府東大阪市 森 佳月

入選

水音も描いてみたきや青葉雨  
 格子戸に木彫の屋号つばくらめ  
 陽の力宿す青葉の深き色  
 噴水に触れ幼子等小躍りす  
 西郷どんは解らん人ばい青嵐  
 桜蕊降る学び舎の丸時計  
 ます作る匠の枝や夏のれん  
 梅雨寒し循環バスの時刻表  
 風薫る青葉若葉のマリア像  
 補聴器に梅雨の雨音確かなる  
 夏休み忘れ去られるランドセル  
 初枇杷を夫に供えてひとりごと  
 早苗饗や先づは地酒で乾杯す  
 野遊や黄泉へ連れゆく童うた  
 ふれあいて終りはひとり花筏  
 妹を乗せて姉押すこどもの日  
 晩夏光まだ子に負けぬ腕相撲  
 もぐもぐときりんの親子こどもの日  
 みな帰り元の二人や柿の花  
 船を待つ会話の中の青嵐

一般の部

不破郡垂井町 川瀬 慶泉  
 不破郡垂井町 久保田 紘義  
 岐阜市 花川 和久  
 大垣市 佐竹 余史美  
 大垣市 官上 美濃留  
 大垣市 田口 貞善  
 愛知県一宮市 佐々 房子  
 養老郡養老町 山田 順子  
 京都府宇治市 椎原 園美  
 大垣市 村田 通夫  
 不破郡垂井町 中嶋 結映  
 不破郡垂井町 竹嶋 富美子  
 兵庫県神戸市 岸下 庄二  
 群馬県館林市 坂口 いちお  
 大垣市 柴田 えり子  
 千葉県八千代市 菅野 三男  
 広島県福山市 中常 かつたろー。  
 三重県四日市市 藤田 勝民  
 愛媛県松山市 平野 ヒサエ  
 本巢市 山田 香山

選者吟

落ちてなほ矜持ありけり沙羅の花

誠 一

